ト呼ブ●**ねこだま**水澤町（じゃのひげ）ねこだまハ猫ノ目玉ノ意、碧ク光ル實カラ名ヅク　●**ぴーぴーぐさ**種市村（やぶくわんざう）葉柄ヲ內面カラ强ク吸ヘバぴーぴート鳴ル　●**あまっこ**種市村（しろばなえんれいさう）果實ヲ食フ、あまっこハ甘味ノ意デアル　●**きつねのちょーちん**種市村（からはなさう）果實ノ形カラノ名　●**ぴりぴりぐさ**江刺郡稻瀨村（くろぐわね）莖ヲ指ニテ壓セバピリ〳〵ト音ヲ發スルカラノ名　●**ぼんめ**水澤町（こんぶ）お盆ニ佛前ニ供ヘル故云フ　●**ぼっちょわかめ**種市村（すぢめ）食用ニスル、ぼっちょハ凹凸アルノ意、一ニざるめト呼バレル　●**てぬくさ**九戸郡種市村（てんぐさ）ところてんノコトヲてぬト稱スル　●**すずめのあしがらみ**種市村（かもがしらのり）雀ノ足ニ引掛ルノ意、食用ニスル　●**あづきもだち**種市村（せんぼんしめぢ）菌傘ハ小ク多數デ恰モ小豆ヲ散シタルガ如キ故云フ、食用トナル　●**すずめのわかい**水澤町（せんぼんしめぢ）菌傘ハ雀ノ卵ニ似テ居ルトテ此名ガアル　●**なんばきのこ**水澤町（べにたけ）なんばん卽チたうがらしノ如ク赤イカラ云フ　●**ぼれめき**水澤町（ならたけ）菌柄ヲ折ルニボレ〳〵音ガスル爲メ名ヅケル、めきハめくデアル、食用菌　●**ならのきかっくえ**種市村（ならたけ）群生スル茸ヲ總テかっくえト稱スル、ソレユエくりたけヲくりのきかっくえト呼ブ

○伊勢ノ御葉つきいてふ

伊勢、津市　矢頭獻一

植物研究雜誌六卷一號ニ「御葉つきいてふ」ニ就テ牧野先生ノ記事、同二號ニ向坂先生ノ記事ガアリマシタ、コノ「御葉つきいてふ」ハ伊勢ニモ產シマスノデ參考マデニ玆ニ御知セスル次第デス、伊勢デ現在知ラレテ居ル「御葉つきいてふ」ノ產地ハ次ノ三ケ所デアリマス

伊勢國、一志郡、久居町、縣立農林學校內（私ノ母校デス）

同　同　川合村、大字其村、長圓寺境內

三重縣立久居農林學校ノ御葉つきいてふ
（昭和四年九月二十三日矢頭獻一撮影）

伊勢一志郡川合村其村長圓寺ノ御葉つきいてふ
（昭和四年九月二十三日矢頭獻一撮影）

伊勢國、度會郡、七保村、大字野原、七保村第二小學校内七保村ノ「御葉つきいてふ」ハ同小學校長ノ子息ガ私ノ久居農林時代ノ同窓デ久居農林ノ「御葉つきいてふ」ヲ私ガ珍ラシガッテ居マスト自分ノ村ノ小學校ノ大いてふニモ出來ルト教ヘテクレタノデ三重師範ノ服部先生ニ私カラ又報告致シマシテ服部先生ガ七保村ニ行カレテ細カク調査シテ居ラレマシタ

久居農林及其村ハ私ガ少シバカリ調ベマシタノデ次ニ書イテ見マス

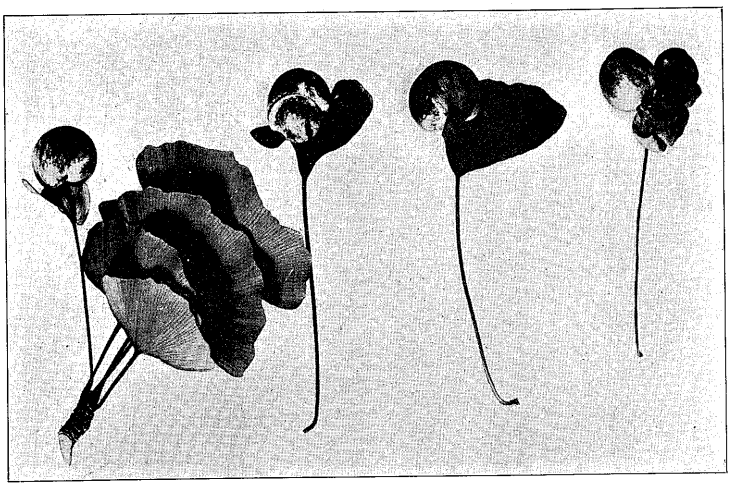
久居農林ノいてふニ「御葉つきいてふ」ガ出來ルノヲ私ガ始メテ知ッタノハ大正十五年ノ十月下旬デ丁度運動會ノ準備ヲシテヰル時デシタ

樹ノ大キサハ高サ七間位、周圍ハ胸高約六尺、直徑ハ約二尺デ乳ナドハマダ出來テ居リマセン

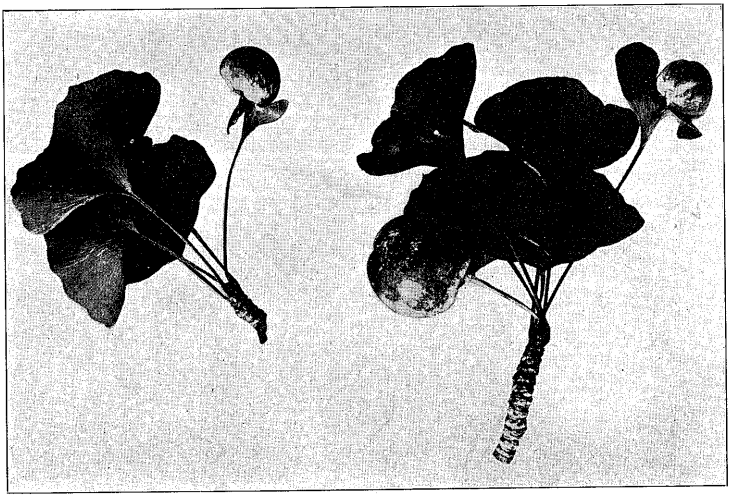
寫眞ハ同校ノモノヲ私ガ昭和四年九月二十三日ニ採集シテ同二十五日ニ高農植物教室デ撮影致シマシタモノデアリマス

又同郡川合村、其村、長圓寺ノハ矢張リ久居農林時代其村カラ學校ニ來テヰル友人ガ私ニ知ラセテクレタモノデ昭和

伊勢ノ御葉つきいてふ



三重縣立久居農林學校ノ御葉つきいてふ
（昭和四年九月二十五日矢頭獻一撮影）



同　上

四年九月二十三日ニ農林學校ニ行ッタツイデニ見ニ行ッテ來マシタ樹ノ高サハ十間位、周圍ハ胸高約十二尺、直徑ハ約四尺デ乳モ數個出來テ居リマス大木デ登ル事モ出來ズ最近大風モ吹カナイノデ「御葉つきいてふ」ヲ採集スル事ハ出來マセンデシタ、尼さんニ「御葉つきい

てふ」ハ出來ナイカト言ッテ農林學校產ノ實物ヲ見セマシタガ尼さんハ「此ノいてふニソンナかたわナンカ出來ナイ」ト言ッテ居マシタ、シカシ其村ノ友人ガ採集シテ私ニクレタノモアリ、私モソノ日、葉ニ花ノ跡ノツイタモノヲヒロヒマシタノデ「御葉つきいてふ」ガ出來ル事ハ確カデアリマスナホ師範ノ服部先生ハ「御葉つき銀杏について」ト云フ「プリント」ヲ作ッテ師範ノ生徒ニ配ッテ以上ノ外ノ產地ヲ調ベラレマシタガ以上三ケ所ノ外ハ何處ニモ無カッタト言ッテ居ラレマシタ

○斷枝片葉（其四十九）

牧野富太郎

●八丈なでしこ　京都ノ本草大家山本亡羊ノ調製セル寫生植物集ト思ハルヽ書（未刊）ニ八丈なでしこト稱スル彩色圖ガアル、彼ノ飯沼慾齋ノ『草木圖說』卷ノ八ニ此圖ト其名稱トヲ其マヽ移シテ之レヲ載セ「全形石竹ヨリ長大ニシテオランダナデシコノ如ク莖粗ク葉色石竹ノ如ク形石竹ヨリ稍闊シテ長ク三縱道アリ梢上分枝多花聚リ放クコトフヂナデシコノ如ク花ノ形色亦相似テ稍大ニ外萼尖銳莖ニ紫色ヲ帶ブ產地不詳或云八丈島又云東國海濱ニ產ス」ノ文ガ附シテアル、明治八年ノ田中芳男、小野職慤ノ新訂版卽チ『新訂草木圖說』ニモ尙原本ノ名ヲ存シテ之レヲはちじゃうなでしこトシテアル、明治四十三年版ノ『增訂草木圖說』ニ至テ私ハ斷然此舊名ヲ廢シテ之レヲみやまなでしこト訂正シ其學名ニ Dianthus shinanensis MAKINO. ヲ充テ且ツ「本種ハ信州、甲州並ニ北海道ニ自生シ夏時ニ花ヲ開ク、花瓣紅紫色ニシテ頗ル美ナルヲ以テ培養セバ一觀賞花草トナスノ價値アリ、本文ニ「或云八丈島又云東國海濱ニ產ス」トアレドモ蓋シ是レ誤傳ニ出ヅ從テ之ヲ八丈ナデシコト稱スルハ其名實相副ハザルヲ以テ今此ニ之ヲミヤマナデシコト改稱シタリ」ト補記シテ置イタ如ク之レヲ八丈なでしこト稱スルハ交通不便萬事不案內ノ時代全クヨイ加減ノ想像カラノ名デアッタト斷定スルノガ至當